

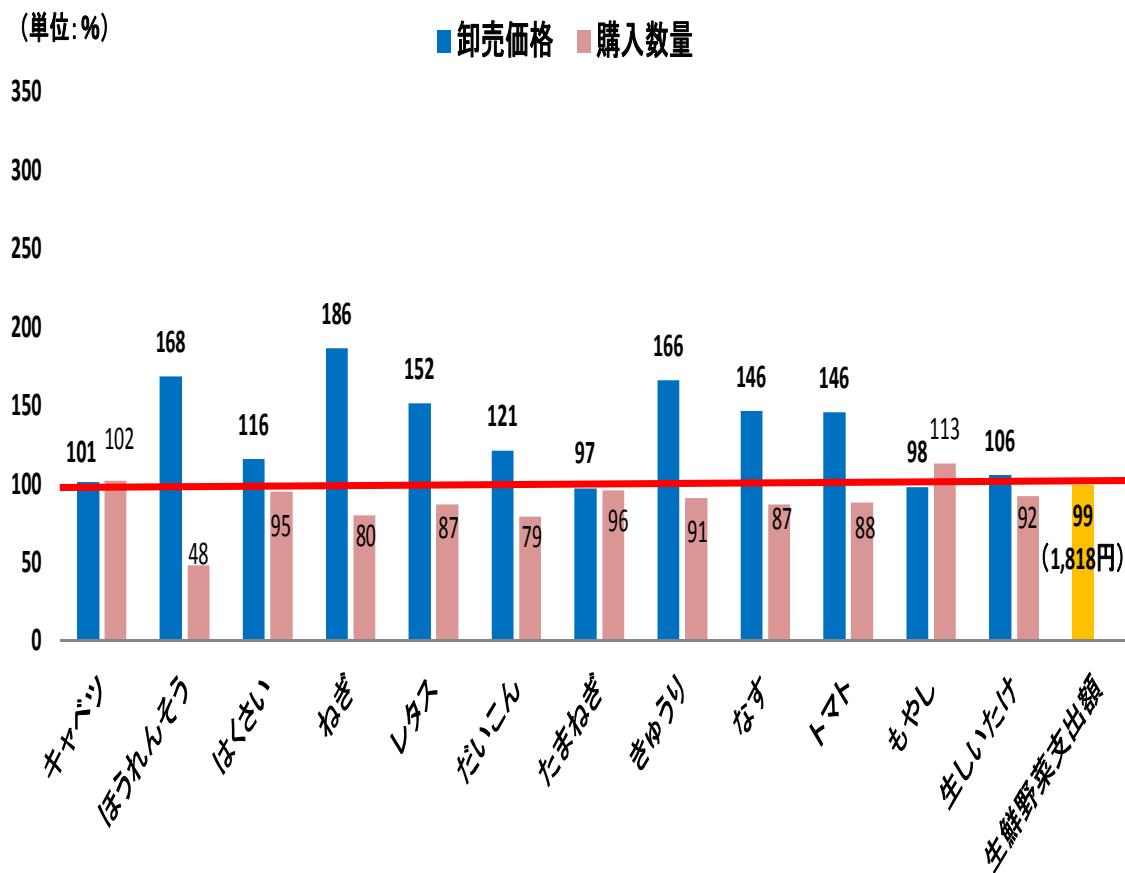
野菜価格高騰と家計購入量との関係について

野菜価格高騰と家計購入量との関係について

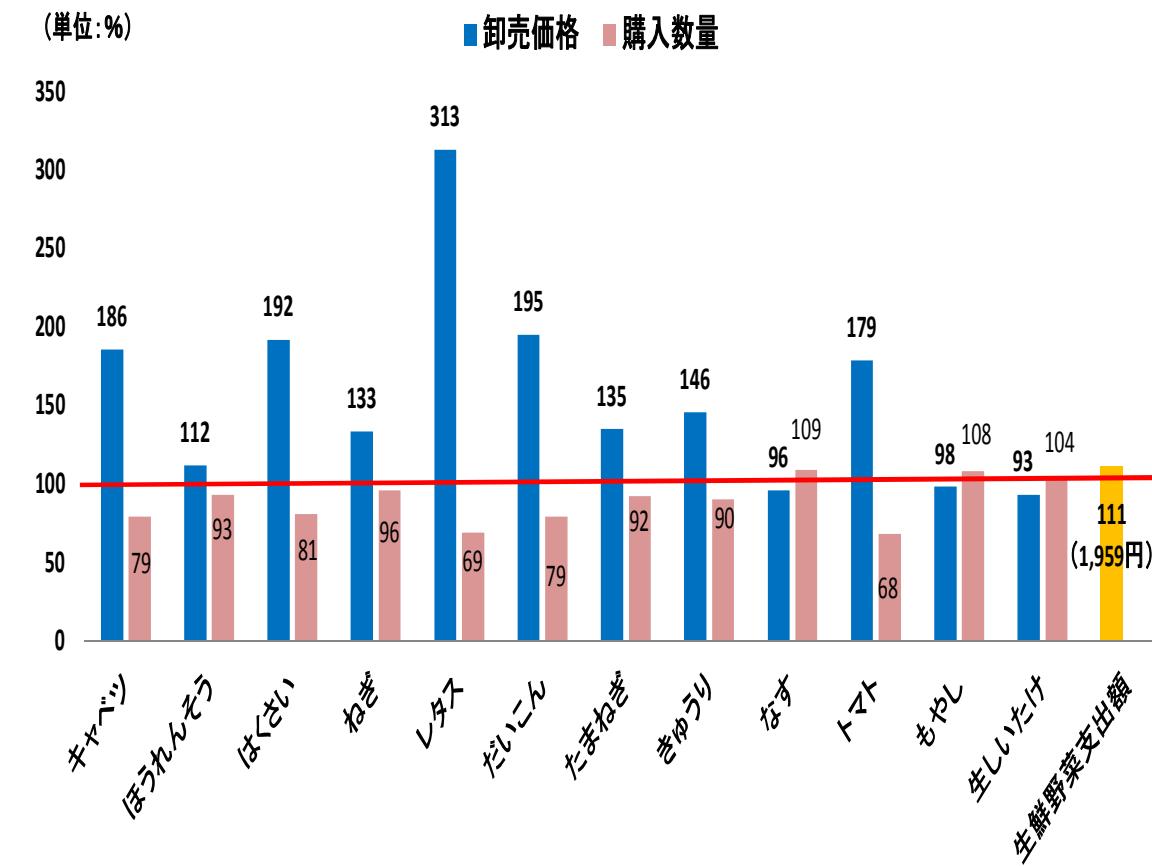
野菜の卸売価格と購入量との関係についてみると、①9月は、価格高騰の大きいほうれんそう、ねぎ等で減少、割安感があったキャベツは微増、②10月は、価格高騰の大きいレタス、だいこん等で購入量が減少、価格の低下したなすは増加、③価格の低下したもやしは増加、④生鮮野菜の購入額は9月は前年並み、10月は上昇、といった特徴がみられる。

購入量は価格に敏感に対応しているとみられる一方、生鮮野菜への支出額は前年並みもしくは増加している。こうしたことから、消費者は野菜への支出を減らすわけではなく、野菜の購入に際して最適行動をとっており、価格が落ち着いてくれば、購入量は回復してくるものと推測されるが、今夏の価格高騰が長期間に渡っており、11月以降の動向も注視したい。

卸売価格及び購入数量の対前年比(2010.9月)



卸売価格及び購入数量の対前年比(2010.10月)



※資料: 東京都青果物情報センター、総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯は除く)」

※卸売価格は東京都中央卸売市場卸売価格

※購入数量は一人当たり購入数量

※生鮮野菜支出額は、生鮮野菜の一人当たり支出金額。

《大規模生産者・法人の皆様への窓口を開設しました！（直接契約課）》

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、太田、三部 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484